

報告事項サ

平成27年度韓国江原道との教員交流について

平成27年度韓国江原道との教員交流について、別紙のとおり報告します。

平成27年11月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

平成27年度韓国江原道との教員交流派遣について

平成27年11月20日
小 中 学 校 課
特 別 支 援 教 育 課
高 等 学 校 課

1 趣 旨

鳥取県教育委員会と韓国江原道教育庁との教育交流の一環として、訪問団を派遣し、学校及び教育関係施設訪問をとおして、教育問題等について意見交換を行い、相互理解と友好を深め、交流の促進を図るとともに、国際理解教育をはじめとする本県教育の向上に資する。

2 派遣期間

平成27年11月1日（日）～11月6日（金）

3 訪問団の構成

団 長 教育次長

副団長 小学校 教頭

団 員 小学校教諭1名、中学校教諭1名、高等学校教頭1名、高等学校教諭1名
特別支援学校教諭2名、事務局他2名

4 訪問の概要

月 日（曜日）	行 程
11月1日（日）	○米子鬼太郎空港—韓国仁川空港—春川市（道庁所在地）
11月2日（月）	○韓国江原道教育庁訪問 ・副教育監表敬訪問 ・江原道教育施策の説明及び意見交換 ○江原ア二高等学校訪問 ・概要及び教育課程運営などの紹介 ・派遣教員による授業 ○南山初等学校訪問 ・概要及び持続可能な発展教育・国際交流についての紹介
11月3日（火）	○束草チョンヘ学校訪問 ・概要及び特別支援学校における職業訓練の紹介 ○江原外国語教育院訪問 ・概要紹介及び英語研修 ○江原道教職員修練院訪問 ・施設見学
11月4日（水）	○江陵文化施設見学 ○江陵中学校訪問 ・概要及び教科別教室制運営などの紹介 ○冬季オリンピック開催地視察
11月5日（木）	○ソウル文化施設見学
11月6日（金）	○ソウル市—韓国仁川空港—米子鬼太郎空港

※交流の詳細については、別添のとおり。

別 添

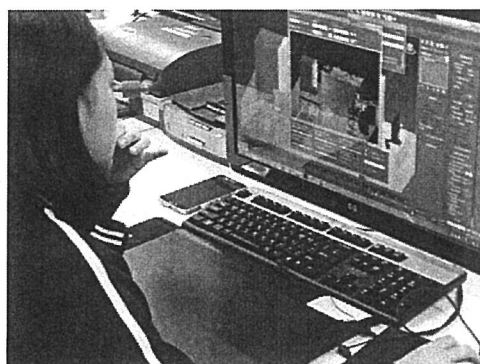
1 江原道教育庁訪問

- 江原教育の目標は、個人の人間性の実現を通じた幸せの追求にある。江原教育においては、学生、保護者、教職員だけでなく、道民全員が江原教育の主体であり、江原教育の進む方向は、教育の主体の構成員皆の参加で決定される。先進国型の教室福祉の実現に向け、①楽しく学ぶ勉強のための授業福祉（学校革新、授業革新、評価革新）、②一人一人の夢を伸ばす進路福祉、③最高の教育環境のための施設福祉の3大プロジェクトが推進されている。
- 少子化からくる児童生徒数の減少への対応、地域で活躍する人材の育成、日本の基礎科学分野の成功要因といったことについて意見交換が行われた。

2 施設訪問の概要

■江原アニ高等学校

- 映画、漫画、アニメの分野で活躍する人材を育成。創造の質を高め、創造の喜びを感じさせることを大切にした教育を展開しており、学業のほか、部活、外国語プログラム、読書プログラムの充実も図っている。
- アニメーション制作、映像編集、音響制作などの教室やスタジオがある。より専門的な学びができる教室環境になっている。スタジオをテレビ局が収録で活用する等、本物のテレビ制作を目の当たりにすることができる。
- 本県の高等学校教諭が行った日本や鳥取県等を紹介する授業に対して、生徒たちは日本語で積極的に質問していた。



授業の様子。パソコンは1人1台。個人用パソコンを持ち込むことも可能。

■南山初等学校

- ユネスコの「持続可能な発展教育（ESD）」を実施し、指導の充実を図っている。自然生態分野、環境分野、国際交流分野といったESDプログラムが用意されている。
- イングリッシュセンターを設置しており、小3からネイティブティーチャーとのTTで英語の授業を行っている。小6で簡単なコミュニケーションができるようになることを目標としている。



児童による歓迎演奏

■東草チョンへ学校（特別支援学校）

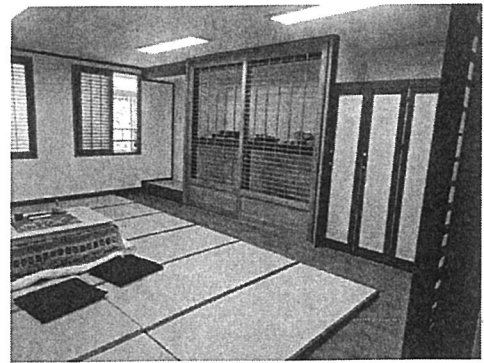
- 小学部から高等部まで19学級ある。愛と希望と夢を一緒に育て、社会生活に適応し自立した生活を送ることを目指し、一人の生徒が「一つの技」をもつことを目標としている。
- 校内にカフェやベーカリーなどをつくり、職業教育に力を入れている。校地に職業訓練施設である「学校企業」が設置され、キムチの生産と販売を行っている。



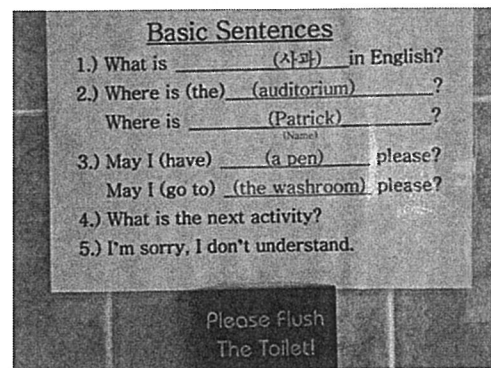
学校企業のキムチの生産工場

■江原外国語教育院

- 小中高生へのプログラムと先生方に対する教育プログラムがある。2013年には本県と協定を結び、7名の教員が研修に参加している。
- 子ども対象のプログラムでは、場面を設定し、体験活動を中心に学んでいる。長期休業中には、1日キャンプや3日キャンプを実施。また、地方の子どもたちのために「1日体験バス」を地方に派遣し、バス内で英語体験ができるようにしている。高校生向けとして、日本、中国、ロシアの文化を体験するプログラムも用意されている。
- 教員向けプログラムについては、オンライントレーニングで自宅での研修も可能となっている。韓国語教師とネイティブティーチャーによる効果的なTT指導の実施を目的とした、授業力を高めるトレーニングも行われている。6ヶ月の研修では、4ヶ月は江原外国語教育院で、2ヶ月は外国でトレーニングを行う。日本語教師、中国語教師になるためのプログラムも用意されている。



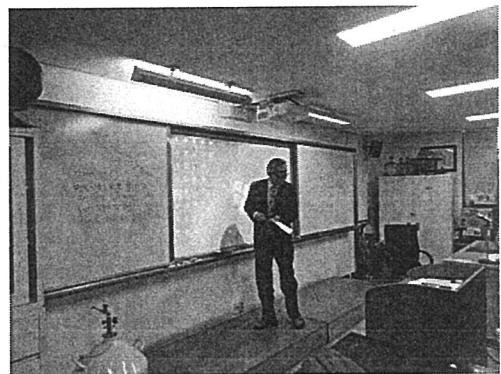
日本を体験する部屋。様々な国の部屋があり、その国を体験しながら語学を学ぶことができる。



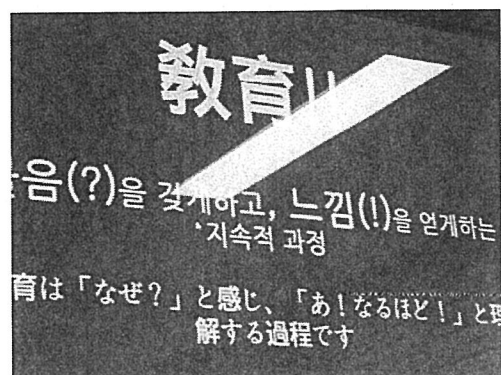
トイレにも基本的なセンテンスが表示されている。

■江陵中学校

- 2014年度から教科教室制を導入している。すべての教科で教科別の教室にしているのは江陵中学校のみである。少子化で生徒数が減少し学級数も減ったため、教室数が不足することはない。朝はクラスでホームルームをし、その後教科教室に移動。授業はクラス単位で受ける。生徒は学習しやすいと感じている。
- 生徒自身が進路を切り拓く力を身に付けることを目標として、自由学期制を1年生の2学期に実施している。選択教科、芸能、スポーツなどのプログラムが用意されており、教育課程に関わる授業は午前で終える。生徒、保護者から、入試対応についての心配の声はあるものの、本制度に対する満足度は高い。教師側は、学校だけの取組ではなく、地域とのつながりの中で実施することが必要であると感じている。
- 今年度から放送通信中学校を併設している。インターネット動画で学び、日曜日にスクーリングを行っている。遠足などの学校行事もある。90名の定員に対して270人の希望があり、62歳～80歳までの90名が入学した。



教室の前面は、真ん中に電子黒板、その両サイドにホワイトボードが配置されている。



『教育は「なぜ？」と感じ、「あ！なるほど！」と理解する過程』